

2024.4.5 fri

at Tokyo Opera City

Concert Hall : Takemitsu Memorial

主催：一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ

助成：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション



後援：一般社団法人全日本吹奏楽連盟、東京都吹奏楽連盟、  
公益社団法人日本吹奏楽指導者協会、公益財団法人日本音楽教育文化振興会、  
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会、一般社団法人日本吹奏楽普及協会、  
日本コロムビア株式会社、株式会社テレビマンユニオン

Tokyo Kosei Wind Orchestra

大井剛史  
常任指揮者  
就任記念演奏会



マスランカ・チクルス Vol.1



<https://www.tkwo.jp/>



つくる。つづむ。つなぐ。

東京佼成ウインドオーケストラ

## PROGRAM | プログラム

### セレブレイション(1991年委嘱作品)／P.スパーク [約10分半]

Celebration / Philip Sparke

### 2つのコラール前奏曲／J.ブラームス／R.ギュンター編 [約6分半]

Two Chorale Preludes / Johannes Brahms / Transcribed by Ralph Guenther

#### 一輪のばらは咲きて(作品122-8)

Es ist ein Ros' entsprungen Op.122-8

#### おお、汝正しくして善なる神よ(作品122-7)

O Gott, du frommer Gott Op.122-7

### 秘儀 IX〈アスラ〉／西村 朗 [約12分]

HIGHI IX "ASURA" / Akira Nishimura

休憩 Intermission [20分]

### 交響曲第2番／D.マスランカ [約34分]

Symphony No.2 / David Maslanka

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 第1楽章 モデラート      | I. Moderato        |
| 第2楽章 “ディープ・リバー” | II. "Deep River"   |
| 第3楽章 アレグロ・モルト   | III. Allegro Molto |

#### ❗ 注意

- 本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合がありますこと、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承ください。
- ホール内での飲食、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- 携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- 演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮ください。

本公演に関するアンケートへ  
ご協力ください。



## PROFILE | 指揮者プロフィール



2024年4月、東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者に就任。

17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。

2007～2009年チェコ・フィルハーモニー管弦楽団で研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。在学中より東京二期会、新国立劇場などのオペラ公演で副指揮者をつとめ、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮してデビュー。その後はオペラのほかバレエ、ミュージカル、日本舞踊との共演など多くの舞台公演を指揮。

仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者(2000～2001)、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者(2009～2016)、山形交響楽団指揮者(2009～2013)、同正指揮者(2013～2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者(2014-2024)を歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。

レパートリーは極めて広く、オーソドックスな管弦楽／吹奏楽の作品を中心として、現代音楽の初演、ゲーム音楽、映画音楽、ポップスなどありとあらゆる音楽を手がける。トーク付きのコンサート、また子供のためのコンサートなどを通じて、より多くの方々に音楽に親しんでいただくことに情熱を注いでいる。

東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)、尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。

# 就任挨拶

## 常任指揮者 大井剛史

Takeshi Ooi, Principal Conductor



本日は東京佼成ウインドオーケストラの新しい時代の幕開けとなる演奏会にご来場いただき、ありがとうございます。

チラシにもプログラムにも私の名前と写真が大きく載っておりますが、皆様にお聴きいただきたいのは「私」ではありません。あくまで作曲家が書いた音楽そのものに耳を傾けていただきたいのであり、そしてその音楽を舞台の上に現出させようという心を尽くす演奏者の息吹を感じていただきたいのです。指揮者はその補助線となるささやかな存在に過ぎません。

鑑賞対象としての吹奏楽の未来をいつも考えています。マスランカの交響曲のような、興味の尽きない作品が吹奏楽には沢山ある。その魅力をより多くの方々に振りまいていくために、さらに充実した演奏内容を目指し、新しい作品にも挑戦しながら、様々な取り組みをしていきたいと思っています。

吹奏楽の作品なら聴きたい、あるいは、東京佼成ウインドオーケストラの演奏だったら聴きたいという方々で客席が溢れかえる日を目指して、今日から再び歩み始めます。その旅路を、ぜひ皆様と一緒に歩んでいきたい、これが私たちの願いです。

## 楽芸員 中橋愛生

Yoshio Nakahashi, Music Curator



2024年4月より楽芸員を拝命いたしました。自分が中学生の頃から憧れの存在であった東京佼成ウインドオーケストラにポストを頂くとは身の引き締まることですが、微力を尽くしたいと思います。

吹奏楽の魅力、可能性を多くの人に知って頂くためには、素晴らしい演奏内容は当然ながら、それが如何にして成り立っているかを学術的に示していくことも重要だと考えています。楽曲の背景、歴史的な必然性、周辺事項との関連性、将来への発展性など、様々な内容について多角的に調査・考察し、その結果を整理して分かりやすく提示する。それによって東京佼成ウインドオーケストラ、さらには吹奏楽の素晴らしさを拓かれた外部に発信していくことを目指します。

消費される音楽ではなく、継承される文化の発信者へ。これからの東京佼成ウインドオーケストラにご期待ください。

# TKWO Season Concert Schedule 2024-25

会場：なかのZERO 大ホール

## 第164回 定期演奏会

自然、神、地球

2024年 4月26日 [金]  
開演 19:00 (開場 18:15)

### 指揮 横山 奏

- “地球”-美しき惑星-(2011年委嘱作品)/真島俊夫
- 水の交響曲/S.ランセン
- 交響詩「炎の詩」/I.ゴトコフスキー
- 交響曲第1番「大地、水、太陽、風」/P.スパーク



[1回券]一般 5,000円/U25 2,500円 会員先行 2024年1月22日(月)/一般発売 2024年1月29日(月)

## 第165回 定期演奏会

オール《ジョン・マッキー》  
プログラム

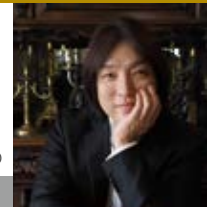
2024年 6月8日 [土]  
開演 18:30 (開場 17:45)

### 指揮 飯森 範親 (首席客演指揮者)

- オーロラは目覚める/J.マッキー
- ソプラノ・サクソとウインド・アンサンブルのための協奏曲/J.マッキー
- 翡翠/J.マッキー
- レッドライン・タンゴ/J.マッキー
- フローズン・カテドラル/J.マッキー



独奏 林田 祐和  
(TKWOコンサートマスター)



[1回券]一般 5,000円/U25 2,500円 会員先行 2024年4月1日(月)/一般発売 2024年4月8日(月)

## 第166回 定期演奏会

オストワルド賞の系譜

2024年 9月28日 [土]  
開演 18:30 (開場 17:45)

### 指揮 大井 剛史 (常任指揮者)

- 朝鮮民謡の主題による変奏曲/J.B.チャンス
- 交響曲第1番/J.バーズ
- 交響組曲/C.ウイリアムズ
- シンフォニア/周天



[1回券]一般 5,000円/U25 2,500円 発売日:調整中

## 第167回 定期演奏会

マスランカ・チクルス Vol.2

2025年 1月11日 [土]  
開演 18:30 (開場 17:45)

### 指揮 大井 剛史 (常任指揮者)

- ブーレスク風ロンド(1972年委嘱作品)/伊福部 昭
- 交響曲第9番\*/D.マスランカ

ピアノ 鈴木 慎崇\*



[1回券]一般 5,000円/U25 2,500円 発売日:調整中

※全席指定・税込 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※出演者、曲目、時間等は変更になる場合がございます。 ※会員先行は定期会員・サポーターズクラブ会員対象。

## 定期会員券

2024-25シーズン定期演奏会全4回を同じお席でお得にお聴きいただけます!

好評  
発売中!

料金 全席指定 ¥16,000 U25 ¥8,000

販売期間 2024年4/25[木]まで

※全席指定・税込 ※TKWOチケットサービスのみのお取り扱い。

# PROGRAM NOTES | 曲目解説—中橋愛生 (TKWO楽芸員)

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

## フィリップ・スパーク作曲 セレブレイション

2024年、新体制となった東京佼成ウインドオーケストラ(以後、TKWO)は今後の方針の一つとして「つなぐ」、即ち過去の委嘱作品の再演を挙げた。その第一弾である。

スパークは、日本の吹奏楽界で抜群の知名度と人気を誇る1951年生まれの子イギリスの作曲家。10代の頃よりピアノとヴァイオリンで音楽をはじめ、やがてトランペットに転向、英国王立音楽大学および同ディプロマで作曲とピアノ、トランペットを学んだ。大学での作曲の師であったフィリップ・キャノン(1929-2016)が学内で吹奏楽団を指揮していたことから同団の演奏に参加し吹奏楽に関心を持つようになり、やがて自身で金管バンドも結成した。この両形態に書いた作品により学生時代に作曲家としてデビュー。以降、サドラー国際吹奏楽作曲賞(1997)、NBAウィリアム・D・レヴェリ記念作曲賞(2005および2016)など数々の賞を受賞し、2020年にはアメリカ吹奏楽指導者協会の名誉会員にも就任するなど、世界中で活躍している。

そんなスパークはTKWOとも縁が深い。これまでに2曲の新作を提供しているほか、1992年には初来日しTKWOと自作自演による作品集を録音しており、このときに元は金管バンドのために作られた『オリエント急行』(1986)の吹奏楽版を初演している。そのスパークとTKWOとの馴れ初めは、1989年にさかのぼる。その年、TKWOは初のヨーロッパ演奏旅行を行った。そのロンドンでの公演で、TKWOはエリック・バンクス(イギリス空軍セントラル・バンドの元指揮者)の指揮で『ドラゴンの年』(1984/1985吹奏楽版)を演奏している。TKWOはこのツアーで知己を得た3人の作曲家(ジョゼフ・ホロヴィッツ、ユリアン・アンドリーセン、フィリップ・スパーク)それぞれに新作の作曲を委嘱することになる。結果として生まれた作品のひとつが、今回演奏される『セレブレイション』だ。完成は1991年、初演は1992年6月11日にクレイグ・キルヒホッフ(ミネソタ大学教授)指揮のTKWOによって行われている。スパークがwebサイトに記載しているバイオグラフィに、このことがスパークが世界(特にアメリカ)から依頼がくるきっかけになった、とあるのは特筆すべきことだろう。よく「祝祭」と訳されるタイトル通り、門出を祝うような壮麗な音楽となっているが、このタイトルは同時に「称賛」という意味も持っている。スパークによると、この曲はTKWOのヴィルトウオジティ(妙技性)、人間の精神における楽観性を讃えているのだという。冒頭のファンファーレには始まり、木管を中心とした抒情的な歌、舞台袖からのトランペット、駆け抜けるプレスト、量みかけるようなコーダと、どこをとっても技巧的でありながら、それをひけらかすことの無い格調の高さを併せ持っている。スパークが大事にしているという「合奏する喜び」に溢れた作品だ。

ヨハネス・ブラームス作曲(ラルフ・ギュンター編曲)

## 2つのコラール前奏曲

### 「一輪のぼらは咲きて」「おお、汝正しくして善なる神よ」

ブラームス(1833-1897)は、ドイツ・ロマン派の作曲家。今回演奏される『2つのコラール前奏曲』は、ブラー

ムスの元々の作品としてはオルガン曲『11のコラール前奏曲 作品112』に含まれる2曲。これはブラームスの死の一年前に作られたもので、作品番号を持つ作品としては最後の、いわゆる遺作である。心の支えであったクララ・シューマン(有名な作曲家ロベルト・シューマンの妻にして、やはり作曲家・ピアニスト)が死去したことで悲嘆に暮れていたブラームスが、自らを慰めるために作ったと言われている。既に癌による死期が近いことを悟っていたブラームスが最期の作品としてオルガンのためのコラール前奏曲を選んだのは、若かりし頃に研究対象としていたバッハも最期の作がそうであったことと無関係ではあるまい。

コラール前奏曲とは、元々は教会の礼拝において、会衆が賛美歌(コラール)を歌う前に、その導入として演奏されるオルガン曲のこと。歌われる賛美歌の旋律が(多くはそのままの姿で)曲中に含まれており、それを用いた対位法的楽曲として作曲される。現在では独立した器楽曲として扱われることが多いが、賛美歌を元に行っていることには変わりなく、ブラームスの原曲には賛美歌の旋律に歌詞が記されている。

ブラームスの11曲から第8曲と第7曲を抜粋しこの演奏順として吹奏楽用に編曲したのは、フルート奏者であり作曲家でもあったギュンター(1914-2007)。セントラル・メソジスト大学を卒業後、イーストマン音楽学校でフルートの修士号を得ている。第二次世界大戦後に再びイーストマン音楽学校で博士号を取得し、のちにテキサス・クリスチャン大学でフルートと作曲の教授を務めた。奏者としてもフォートワース交響楽団で首席フルート奏者を務めるなどしている。ギュンターがなぜこの編曲を作成したのかは不明だが、楽譜は1958年に出版されており、「Evocation-Franck」(フランクに喚起されて)と記されている。1946年に指揮者エーリヒ・ラインズドルフ(1912-1993)が管弦楽のために編曲しているのだが、それも同じように11曲の中からこの2曲を抜粋、「第8曲・第7曲」の順で演奏するようになっており、ギュンターもそれを参考にしたのかもしれない(ただし、金管の用い方や、強弱の解釈など、編曲の内容自体は異なる点が多い)。ギュンターの編曲は基本的に原曲に忠実であるが、第8曲「一輪のぼらは咲きて」では原曲の6/4拍子から3/4拍子に変更(小節数が倍となる)、第7曲「おお、汝正しくして善なる神よ」では原曲の2/2拍子から4/4拍子にしたのに加えて調性もイ短調からト短調に変更している。

さて、1984年のフレデリック・フェネルがTKWOの第4代常任指揮者に就任した記念公演である第34回定期演奏会で2曲目に演奏されたのが、この曲だった。今回はそれを踏まえての選曲である。フェネルはギュンターの編曲には無いいくつかの楽器を足したり、ティンパニの楽譜を変更するなどしたいいわば「フェネル版」を作成しており、今回はその楽譜を使用して演奏する。

## 西村 朗作曲 秘儀 IX〈アスラ〉

西村朗は1953年に大阪に生まれ、東京藝術大学および同大学院で学んだ。1974年に毎日音楽コンクール(現:日本音楽コンクール)第一位、1977年にエリザベート王妃国際音楽コンクール作曲大賞、その他に国際的な賞を多数受賞し、学生時代に既にその名声を確かなものとしていた。その後、様々な分野に数多くの作品を提供しており、これまでに尾高賞を6回受賞、NHK「N響アワー」「現代の音楽」の司会を務めるなど、日本を代表する作曲家の一人として活躍していたが、2023年9月7日、70歳となる前日に右上顎癌のため急逝した。

吹奏楽作品としては『巫楽』(1990)が初だが、2008年の「バンド維新」(浜松市文化振興財団によって行われている吹奏楽イベント)より開始された『秘儀』のシリーズで積極的に作品を提供ようになる。2015年度の日日本吹奏楽コンクール課題曲として作られた『秘儀III〈旋回舞踊のためのヘテロフォニー〉』は多くの吹奏楽関係者が記憶しているだろう。このシリーズは当初より全10作が予定されていたが、西村の死により『IX〈アスラ〉』が

シリーズ最後の作品となった。なお、『X』は2023年の東京ハッスルコピー（秘儀シリーズの楽譜を扱っている出版社）の創立50周年記念作品として創られる予定で初演の団体と日程も決まっていた。死の二ヶ月前に筆者が伺ったところ「ほぼ構想は固まっている」とのことだっただけに残念である。

西村によると秘儀のシリーズには「一種宗教的、神話的なテーマによって作曲されており、着想には時として秘教的で呪術的、あるいは異界に接するような幻想性イメージも含まれている」という共通のコンセプトがあるという。『IX〈アスラ〉』も同様なのだが、これについては西村自身の解説を引用するのが最も分かりやすいだろう。

本作の副題は〈アスラ〉。作曲にあたってはアスラが主役の一つのヒンズー教の神話から着想を得た。アスラはデーヴァと呼ばれる神々と対立する存在であり、邪気や悪魔的にイメージされることもある。

この曲の関わる神話は以下のようなもの。

『1000年に及ぶ、原初の乳海の攪拌によって生み出された不死の霊薬「アマリタ」をめぐる神々とアスラ族は争い、神々が勝利して集まりそれを飲んだ。その時、ラーフというアスラがそこに紛れ込み、アマリタを盗み飲んだ。それに気づいた太陽神と月神は、最高神ヴィシュヌに知らせた。ヴィシュヌは怒り、チャクラムという円盤武器を投げ、ラーフの首を切断したが、アマリタで不死となっていたラーフの首は生きたまま天に舞い上がった。そしてその首は告げ口をした太陽神と月神を恨み、追い回して飲み込み日蝕や月蝕を起こすことになった。しかし哀れなことに首から下の胴体が無いため、飲み込んだ太陽も月もすぐに首をすり抜けてしまう。その繰り返し。』

この曲は、このようなストーリーをそのまま描こうとしたものではないが、曲想との関連は強い。自由に読み取って、鮮烈大胆に表現していただければ幸いである。

西村自身が記している通り、ヒンズー教の神話からインスピレーションを受けた作品ではあるが、音楽の構成要素はヒンズー音楽に限定されているわけではなく、ましてや描写音楽でもない。曲中にはインドネシアのガムランに見られるようなホケトッスも用いられるし、朝鮮半島の舞曲で使われる長短（チャンダン）のリズムも登場する。あくまでも西村朗という個人の内にある汎アジアの宇宙の表出と考えるべきだろう。一方で、多くの西村作品を特徴付けている線的なヘテロフォニー（一つの旋律を変容させたものを同時に重ね合わせる東アジア音楽に顕著な書法）の要素が希薄で、点的な明瞭性が前面に押し出されているのが興味深い。

アマチュア吹奏楽団「Wind Orchestra Spark」の委嘱によって2022年12月始めから2023年1月末にかけて作曲され、同団が5月27日に開催した秘儀シリーズ全曲を演奏するというコンサートにおいて須藤裕也の指揮で初演された。

## デイヴィッド・マスランカ作曲 交響曲第2番

大井剛史のTKWO常任指揮者就任と同時に発表されたのが、〈マスランカ・チクルス〉実施だ。その第一弾となるのが、今回の『交響曲第2番』である。

マスランカは1943年生まれのアメリカの作曲家。オバーリン音楽院からザルツブルグのモーツァルテウム大学への短期留学を経て、ミシガン州立大学にてオーエン・リード（1910-2014）に師事し修士号および博士号を取得した。ニューヨーク州立大学ジェネセオ校など様々な大学で教え、1990年以降はフ



リーランスの作曲家として活動、2017年に結腸癌のため死去するまでに管弦楽や合唱、そして吹奏楽のためにたくさんの作品を残している。

その作風は実に個性的であり、観念的でもある。マスランカの「作品1」とされた作品は20歳のときのものであるが、マスランカは本当のデビュー作は『フルートとピアノのためのデュオ』（1972）である」と語っている。この曲において、マスランカは「自己の作曲スタイルを初めて自覚する。それについてマスランカは多くの言葉を残しているが、抽象的で時に難解であるため、正確に理解し第三者が説明するのは困難である。音楽は自らの無意識「真の声」より生まれてくるものであり、その衝動に突き動かされ、それに従うことで創られる、とでも要約されようか。結果として、マスランカの創作はあらかじめ考えて構築していったもの、とは少し異なる。本能的衝動に突き動かされるうちに、マスランカの理論的な知識と結びつき、自然と形式的な構造にたどり着く（時にそれは伝統的な形式となる）のだという。また、マスランカが「ハ長調の和音が自分のものである」と「発見」したのも、この28歳の頃だという。マスランカはこの後、心身耗弱に陥り、最初の妻との離婚などの私生活での苦難もあり、精神のトラブルを経験する。その心理療法から瞑想を行うようになったり、哲学書などを読むことによって、作曲スタイルを確かなものにする。代表作『子供の夢の庭』（1981）は、その一つの証といえよう。また、マスランカの作品にはバッハの引用や、古い民謡もしばしば登場する。それらは多くの人々が何世代にもわたって歌われ続けたもので、「深く正しい」感覚に根ざした、人間の経験の深みと豊かさを体現したものであるからなのだという。

さて、マスランカが自身で完成させ番号を与えた交響曲は全部で9曲。このうち、『第1番』（1971）と『第6番』（2004）が管弦楽作品で、他は全て吹奏楽のために書かれている。『第1番』は27歳の時に博士審査作品として作られたもので、マスランカはこれを不完全なもののみなしている。それに対し『第2番』は「自らの中で多くの古い感情的重荷を解き放つ時が来たために現れた」もので、「一步一步、自分の直感に従って、正しいと感じたことを書いていった」結果、「瞑想を通して、この作品が喪失と折り合いをつけるためのもの」であったと述懐している。そして、この事に気づいたのは初演された後のことだったという。

この曲は、1983年にビッグ・テン吹奏楽指導者協会（アメリカ中部にある大学14校による協会）から委嘱を受けて作曲が開始された。まず先行して第3楽章のみが1985年1月11日に完成し同年2月28日にCBDNA（大学バンド指導者協会）の総会においてマイロン・ウェルチ指揮のアイオワ大学ウィンド・アンサンブルによって初演され、全曲は1986年1月28日に完成し1987年2月28日にやはりCBDNAの総会においてジョン・ペインター指揮のノースウェスタン大学によって初演された。曲は師であるオーエン・リードに、75歳の誕生日を記念して捧げられている。曲は3つの楽章で構成されている。

第1楽章「モデラート」はソナタ形式を採っており、マスランカによると「喪失、諦め、その甘受を題材とした、非常に私的な音楽」。

第2楽章「ディープ・リバー」はマスランカが「この曲の中核を成す」と語る楽章。アフリカ系アメリカ人の霊歌「深い河」で開始されるが、これは第2楽章のおおよその部分が完成した後に、たまたま触れたこの霊歌がこの楽章に合致するという直感から組み込まれたもの。ユダヤの民たちがヨルダン川を渡って故郷に帰りたい、と歌われる霊歌だが、この故郷は天国のことであり、死による救済の歌とも解釈されている。いずれにせよ、喪失の意が込められている。この楽章の最後の音符を書き入れたのとはほぼ同時刻に、スペースシャトルのチャレンジャー号打ち上げ失敗の爆発事故が起きており、死亡した7名の宇宙飛行士全員の「喪失」にこの楽章は捧げられている。

第3楽章「アレグロ・モルト」は再びソナタ形式。ただし主題は第3主題まで存在する（しかし第3主題は再現部では省かれる）。「衝動」よりほとぼしる、執拗なまでに熱狂的なエネルギー。

〈敬称略〉



©Atsushi Yokota

## 東京佼成ウインドオーケストラ

### Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年5月「佼成吹奏楽団」として発足し、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称。

2022年4月より「一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラ」として活動する

日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

2024年4月から大井剛史が第6代常任指揮者、中橋愛生が楽芸員に就任。

桂冠指揮者にフレデリック・フェネル、特別客演指揮者にトーマス・ザンデルリンク、

首席客演指揮者に飯森範親を擁している。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポピュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通し

高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、メディアを通し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

桂冠指揮者 …… フレデリック・フェネル  
 常任指揮者 …… 大井剛史  
 特別客演指揮者 …… トーマス・ザンデルリンク      首席客演指揮者 …… 飯森範親  
 楽芸員 …… 中橋愛生

指揮 …… 大井剛史  
 演奏 …… 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolos …… 丸田悠太、白井源太	Trumpets …… 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、 本間千也*、河原史弥、清川大介、 野呂紀之、三浦彩夏、箕輪瑠璃子
Flutes …… 遠藤優衣、白石法久、 白戸美帆、山内豊瑞	Horns …… 堀風翔*、小助川大河、木村俊介、 幸喜いずみ、佐久間優、古谷幸子
Oboes …… 宮村和宏*、桜田昌子	Tenor Trombones …… 今村岳志*、安久津理子、 伊藤大智、吉田英恵
English Horn …… 梅枝理恵	Bass Trombones …… 久保田和弥、丸田和輝
Bassoons …… 福井弘康*、河村幹子	Euphoniums …… 岩黒綾乃、鎌田裕子
Contra Bassoon …… 君塚広明	Tubas …… 池田侑太、若林毅
Clarinets in E♭ …… 松生知子	Contrabass …… 前田芳彰
Clarinets in B♭ …… 大浦綾子、林裕子*、野田祐太郎、 船橋菜里、浦畑尚吾、太田友香、 河西拓也、近野千昌、徳武敦	Timpani …… 坂本雄希
Alto Clarinet …… 阿部寛己	Percussion …… 渡辺壮*、和田光世、岩下美香、 大場章裕、菊本歩、小林公哉、 野本洋介、ニツ木千由紀
Bass Clarinet …… 後藤榛花	Piano …… 鈴木慎崇
Contra Bass Clarinet …… 原浩介	
Alto Saxophones …… 林田祐和*(Soprano Saxophone)、 都築惇	
Tenor Saxophone …… 松井宏幸	
Baritone Saxophone …… 本堂誠	

※演奏委員

#### コンサートマスター

林田祐和

#### 副コンサートマスター

宮村和宏

#### インスペクター

栃尾克樹

丸田悠太

今村岳志

#### 企画委員

原浩介

#### 役員

理事長 …… 勝川本久

常務理事 …… 八反田弘

専務理事 …… 堀風翔

監事 …… 清水宏一

#### 事務局

事務局長 …… 勝川本久

事務局次長 …… 堀風翔

事務局長補佐 …… 八反田弘

#### 制作

篠原華

大橋証太(ステージマネージャー)

羽田紀子(ライブラリアン)

#### 広報

尾崎真也

荻沼美帆(チケットサービス)

#### 賛助会・サポーターズクラブ

荻沼美帆

尾崎真也

佐原由起

#### 総務

佐原由起

岩崎友香(パーソナルマネージャー)

#### 経理

水本孝枝

## 賛助会員

今後も音楽文化の発展に貢献する活動を行い豊かな社会を実現するため、趣旨にご賛同いただける多くの皆様からの継続的なご支援が必要です。賛助会へのご入会をぜひご検討ください。

年会費	賛助会員	維持会員	特別会員
個人	3,000円/1口	10,000円/1口	100,000円/1口
法人	100,000円/1口	300,000円/1口	1,000,000円/1口



詳細はこちら

※会員期間：会費納入翌月より1年間

お問い合わせ：東京佼成ウインドオーケストラ事務局 賛助会担当 FAX:03-5341-1255 MAIL:patronage@tkwo.jp



## SUPPORTERS CLUB

## 東京佼成ウインドオーケストラ サポーターズクラブ

会員  
募集中

東京佼成ウインドオーケストラ(TKWO)を応援したい仲間が集まるファンクラブです。

TKWOをもっと身近で特別な存在に♪

サポーターズクラブへ入会して、一緒にTKWOを盛り上げていきましょう！



詳細はこちら

## PR Supporters

東京佼成ウインドオーケストラではPRサポーターを募集しております。

東京佼成ウインドオーケストラの活動をサポートしていただけませんか？

ポスター・チラシの掲示、チラシを設置していただける店舗・公共施設を募集しております。(個人も含む)ご協力いただける皆さまのご芳名は定期演奏会プログラム・オフィシャルサイトに掲載させていただきます。



詳細はこちら



## "New Sounds in BRASS" コンサート2024

2024年5月7日(火) 19:00(開場:18:15)

東京国際フォーラム ホールC

指揮：天野正道

ゲスト：エリック・ミヤシロ(Trumpet)、オリタノポッタ(Saxophone)、小堀浩(Guitar)、齋藤順(Bass)

## クリスマスコンサート2024

2024年12月17日(火) 19:00(開場:18:15)

東京オペラシティ コンサートホール：タケミツメモリアル

指揮：大井剛史(常任指揮者)

ゲスト：ジェイコブ・コーラー(Piano) ほか

開催決定!



NONAKA いい楽器をあなたのもとへ  
www.nonaka.com



好評発売中

# Original goods

TKWO オリジナルグッズ



ネイビー

ホワイト

Tシャツ



リングノート



トートバッグ



アクリルキーホルダー



缶バッチ



クリアファイル



東京佼成ウインドオーケストラ  
60年史

ほかにも多くの商品をご用意しております。



ご購入・詳細はこちら



# KOSEIレーベルを 音楽配信サービスで

iTunes、Apple Music、Spotify、Amazon Music、LINE MUSICをはじめとする各音楽配信サービスにて1000曲を超える楽曲を好評配信中！  
1979年の初リリース以降、ポジティブに、かつ体系的に送り出されたコンテンツは、質・量ともに他の追従を許さない。世界に類例を見ない吹奏楽曲の数々を配信で！

主な配信サービス



iTunes



Spotify



Amazon Music



LINE MUSIC

LINE MUSIC

株式会社 佼成出版社  
〒166-8535 東京都杉並区和田2丁目7-1 普門メディアセンター  
03-5385-2311(代表)

